

近畿大学 アカデミックシアター プロジェクト

令和7年度 募集について



近畿大学の学生が主体となり、
教職員、企業、地域住民の方々と協働しながら、
多様な個性をぶつけ合い、
専門領域を超えた試行錯誤を繰り返し、
共に社会問題に立ち向かう
社会的価値を生む活動。



プロジェクトは1年毎に学内公募から採択され、それぞれが自主性を持って取り組みます。
令和6年度のプロジェクト数は合わせて30のプロジェクトがあり、
全プロジェクトの合計イベント数は10月時点で50回以上開催されています。



プロジェクトの5W1H

なにを？ (What)

アカデミックシアターを起点に近畿大学に笑顔や賑わい、活気を生み出すことを目指しています。

いつ？ (When)

年間を通じて活動しています。

どこで？ (Where)

アカデミックシアターのさまざまなスペースが舞台です。
(ACT/THE GARAGEなど)

だれが？ (Who)

夢を持つ学生キャプテンを中心に共感する仲間たちが集っています。

だれと？ (with who)

気に入ったプロジェクトがあれば、どなたでも気軽にご参加いただけます。

どうやって？ (How)

アカデミックシアター公認団体として各プロジェクトは自分たちで運営しています。



学生プロジェクト

学生が持つ得意分野を活かし、学生主導で社会価値の創造に向けて探求、実践。

食品ロス削減推進プロジェクト



KINDAI BIG BLUE



など多数!



教職員プロジェクト

教員等の研究（知見）を活かし、学生と共に新しい課題を探求。

マーケティング・デザインX Lab.



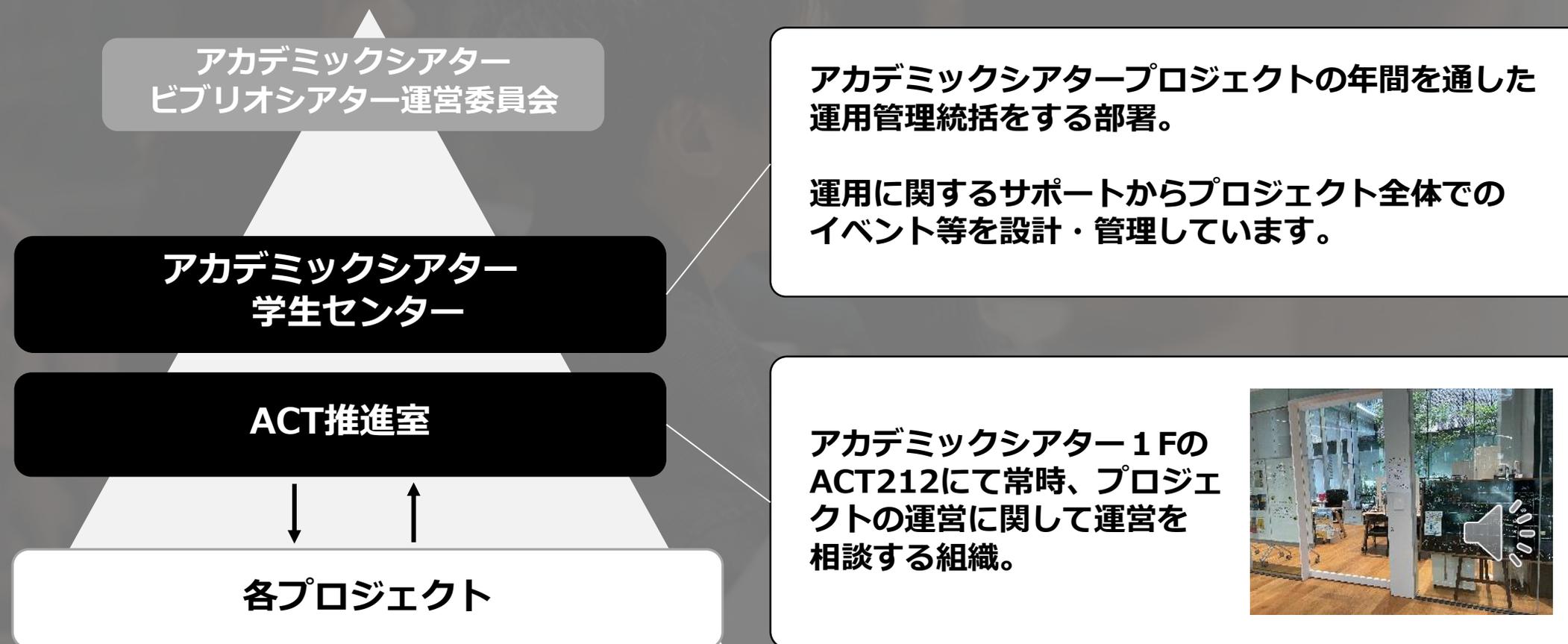
Biocoke de camp



など多数！

プロジェクト運営をサポートする2つの組織

プロジェクト運営に関して、アカデミックシアターでは2つの組織でサポートしています。



プロジェクトに参加すると

- 所属学部以外の仲間ができる！
- 授業以外の楽しみが増える！
- 気に入ったプロジェクトがあればメンバーになれる！
- 自分がキャプテンになってプロジェクトを作れる！
- さまざまなサポートが受けられる！



※ 1 事前に書類審査・面談の審査があります

※ 2 施設利用、広報PR・企画作成支援など幅広く活動をサポートします

採用されたプロジェクトは、アカデミックシアター公認の団体として、アカデミックシアター内の施設を使用することができ、さらに様々なサポートを受けることが可能です。

サポート① 施設（ACT/イベントスペース）利用

アカデミックシアター内にあるガラス張りの部屋ACT（アクト）をプロジェクト活動の基点として1年間使用することが出来ます。



■ ACT

またアカデミックシアター内のイベントホール「実学ホール」や「ラーニングcommons」の使用も可能。



■ ラーニングcommons

サポート② モノづくり施設「THE GARAGE」利用

2021年4月に「ACADEMIC THEATRE Annex THE GARAGE」としてオープンしたモノづくり施設「THE GARAGE」を拠点に、様々な工作器具やデジタル機器を用いて、アイデアを形にするためのプロトタイプを制作することが出来ます。



サポート③ サポートプログラム

プロジェクト活動に基づく支援を目的に、様々なサポートプログラムを用意しています。
※事前に面談と審査があります。

〈サポート内容〉

- イベント実施サポート・ゲスト講演等の謝礼等のサポート
- 外部メンター（CroMen）によるチーム全体へのメンタリング
- プロジェクト間の情報/関心/スキルのマッチングのサポート
- 外部パートナー紹介のサポート

サポートプログラム申請フロー

サポートプログラムを使用するにあたりACT推進室への申請が必要になります

- ① サポートプログラム使用の2ヶ月前を目安に、企画書・申請書を記入し、ACT推進室に提出
- ② 申請書内容を確認し、可否を判断し各プロジェクトにご連絡
- ③ 承認が降り次第学内手続き。

※内容によってはサポートプログラム対象外となり場合もございます。ご注意ください。

サポート④ 広報支援（情報発信）

アカデミックシアターで展開するWebサイト「ACTEX」や、アカデミックシアター公式X（旧ツイッター）等を活用し、イベント告知やプロジェクトの情報発信が出来ます。



「学生キャプテン」対象のサポートに関するメンターシップメンバー「株式会社CroMen」

講座とメンタリングを通して学生のプロジェクトをサポート

▼株式会社CroMen

2012年よりこれまで参加者1,000名を超える大学生キャリア形成支援プログラム「**Cross Mentorship**」を運営。キャリア教育やコミュニティ形成の知見、企画運営ノウハウを活かして事業展開を行っています。



学生プロジェクトを対象に 年間を通してサポート

- 各プロジェクトリーダーを対象としたプロジェクトマネジメント講座の開催
- 毎月のプロジェクトの進捗と目標に対する 1対1メンタリング「1on1」対応



プロジェクトに関わる関係者は、下記のアカデミックシアター公式「イベント」や「会議」への参加をお願いします。

全体イベント

■ キックオフガイダンス（4月）

全プロジェクトが一同に集結したキックオフガイダンスを開催し、プロジェクト同士の顔合わせを実施。

■ オープンACT（10月）

全プロジェクトおよび学内の学生を対象に各プロジェクトの取り組みを紹介しプロジェクト間の交流機会を生むイベントを開催。

■ 成果報告会（3月）

活動の締めくくりとして、プロジェクトの成果を発表するイベントを開催。

会議・講座

■ 全プロジェクト【代表または学生キャプテン】対象

① 「プロジェクト代表者・キャプテン会議」

全プロジェクトの代表者もしくは学生キャプテンを対象とした会議を毎月1回実施。プロジェクト間の交流を図る。

■ 学生キャプテン対象

② 「1 on 1 ミーティング」

学生メンターシップメンバーと学生キャプテンとの1対1での定期ミーティング。プロジェクトに関する様々な相談を行うことが可能。

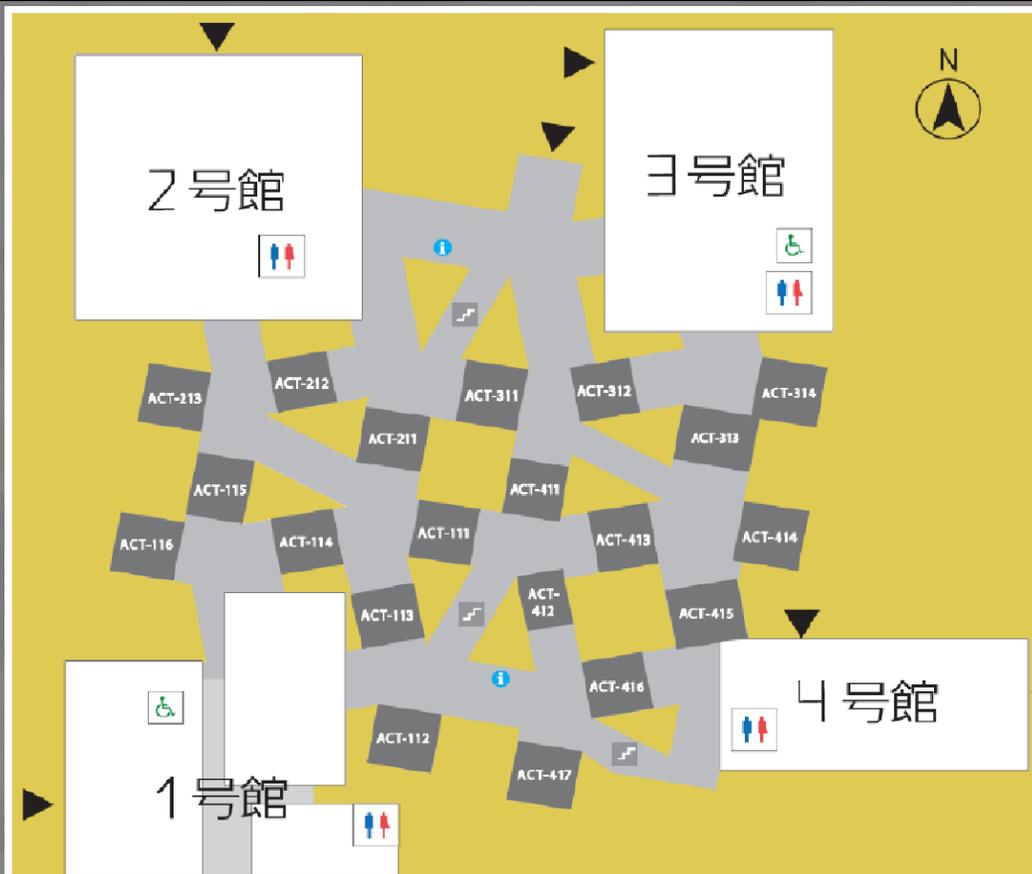
■ 希望者対象

③ スキルアップ講座（「売りこみカセセッション」等）

プロジェクトの推進や自身の将来のビジョンに役立つ様々な講座やセッションの開催を予定。



1F



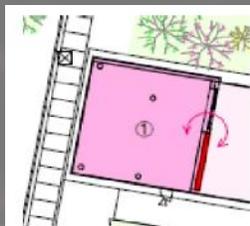
2F



プロジェクトスペース

【大ACT (アクト)】

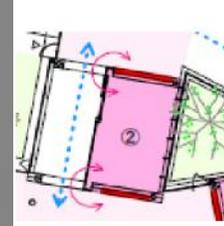
約50㎡ 25名程度収容
*ACT (アクト) によって
多少の大小あり



5号館 1F/2F

【小ACT (アクト)】

約20㎡ 15名程度収容
*ACT (アクト) によって
多少の大小あり



5号館 1F/2F



アカデミックシアター公認の団体として認定されるには下記の要件を満たす必要があります。

募集プロジェクト

- 学生プロジェクト
- 教職員プロジェクト

応募条件

1. 「得意分野」や「専門領域」を活用したプロジェクトであること。
2. プロジェクトには代表となるリーダー（＝キャプテン）のもと、プロジェクトを運用すること。
* 学生プロジェクトは必須。（教職員プロジェクトは任意。）
3. アカデミックシアター主催の全体イベントである、【キックオフガイダンス】
【オープンACT】 【成果報告会】には必ず参加すること。



施設コンセプト

文理の垣根を越えて
社会の諸問題を近畿大学として
解決に導く学術拠点

施設名称



近畿大学アカデミックシアター (近畿大学・知の劇場)



- 1号館 → インターナショナルフィールド
- 2号館 → オープン・キャリアフィールド
- 3号館 → ナレッジフィールド
- 4号館 → アメニティフィールド
- 5号館 → ビブリオシアター
ガラス張りの空間
<ACT (アクト)>**
- 6号館 → THE GARAGE



アカデミックシアタープロジェクト採用基準

施設コンセプトに基づき、以下のプロジェクト採用基準を設定

- 1** × **他領域の掛け合わせになっているか？
そこに化学反応がおこる下地はあるか？**

ゼミ活動は研究室で行えるものと捉え、アカデミックシアタープロジェクトでは、ゼミ活動の延長上ではなく、**文系**の学生×**理系**の学生であったり、学生×企業、学生×地域の掛け合わせなど、学部横断、領域横断を伴った新しい活動であること。

- 2** **社会的課題に向き合った、「実学教育」を伴っているか？**

“実学”の精神を踏まえ、社会の様々な問題に向き合ったテーマであり、さらに、学内での研究活動のみにとどまるのではなく、社会実装を目指した活動であること。

上記をすべて満たした上で、以下の2つの形態のプロジェクトを募集

ACT (アクト) の形態及び応募条件

①常設アクト

1年間ACT (アクト) 内に常設の活動スペースを設けて上記の採用基準に基づき推進するプロジェクト。

【応募条件】

- ・成果発表プロジェクトを含むイベントをACT (アクト) 内や実学ホール、ラーニングcommonsで**必ず年2回以上実施すること。**
- ※イベントは、プロジェクトメンバー以外の学生も参加できるようにすること。
- ・最終報告会で、プロジェクト内容を公表すること。
- ・イベントなどを実施した場合は、必ず活動報告を行うこと。
- ・最終報告会等、アカデミックシアター内のイベントに積極的に参加すること。
- ・コラボレーション空間として活用することを前提に、常時開錠可能(誰でも、いつでも入室できる) であること。

②タイムシェアアクト

1つのACT (アクト) を複数のプロジェクトで共同利用。
週1回以上、3か月を超えるものを原則プロジェクトの対象とする。
(上記以外はアカデミックシアター学生センターへのイベント利用申請で随時対応)

【応募条件】

- ・成果発表プロジェクトの成果をプロジェクト終了後実学ホール、ラーニングcommons等で公表すること。
- ※イベントは、プロジェクトメンバー以外の学生も参加できるようにすること。
- ・イベントなどを実施した場合は、必ず活動報告を実施すること。
- ・最終報告会等、アカデミックシアター内のイベントに積極的に参加すること。

“モノづくり”施設 (6号館 THE GARAGE) を活用することで、これまで以上に活動のフィールドが拡がり、より新しく、そして面白い取り組みにチャレンジすることが可能となります。

募集枠は2つ。

1つは取り組むテーマとメンバーを自由に決めて「自由テーマ枠」。

さらに令和7年度は昨年度に引き続き「公式テーマ」を導入。

学生1名からでも応募が可能。

分類	概要	想定枠数
①自由テーマ枠	プロジェクトの定義に沿う範囲で、学生・教職員が自由にテーマを設定し応募する枠。各自でキャプテンと初期参加メンバーを設定し、応募する。 自由にテーマとメンバーを決めて応募。 (従来通りの募集枠)	30 程度
②公式テーマ枠 〈学生のみ対象〉	事前に用意された6つの公式テーマを選んだ上で、学生1名から応募可能。 応募した学生同士での対話会を実施し、マッチングを行って、プロジェクトとして組成の有無を決定。 *内容次第で、既存プロジェクトとの合流の可能性も想定。	5 程度 

「自由テーマ枠」に関して

「自由テーマ枠」の申請にあたっては、下記の項目について、プロジェクトの代表もしくは学生キャプテン下記の項目に対して記入・申請をお願いいたします。

* 「公式テーマ枠」応募者も可能な範囲で記入してください。

- ①あなたの「得意分野」や「専門領域」は何ですか？
- ②その「得意分野」や「専門領域」を活用してどのようなテーマで、何を行いますか？
または、学生へどのようなミッションを与えますか？
- ③現時点で、一緒に活動するメンバーを教えてください。
- ④どのような活動を行うのか、1年間の具体的な活動計画を教えてください。
- ⑤プロジェクトを通じて、アカデミックシアターや学生、地域・社会に対してどのような貢献ができるかを教えてください。
- ⑥最後に、プロジェクトにかける意気込みを教えてください。



公式テーマの紹介

SDGs/SDGs達成+beyond

2030年にSDGsの達成を目標としている現在。
SDGsの目標、さらにはその先にある社会のあり方を自由に想像・構想し活動を行う枠

A. 「SDGsとその先の目標」を考えよう

まもなくSDGsの達成目標とされているとされる2030年が迫っている。
完全ではないものの、人々の考え方は変革し、新しい時代に向けた思考にアップデートしてきた。
将来はどんな未来が待っているのだろうか？

どこで、何をして、どのような生活を送っているのか。
漠然とした未来を自由に想像し、色鮮やかな世界を描こう。

#新しい価値観の創造

#新しい産業の創出

#多様性と包容性のある社会

#イノベーションの創出

#次世代の地球を考える

#未来エネルギー



#究極の自由研究

#学生視点の新しい働き方

#挑戦

公式テーマの紹介

環境/地球・宇宙

身近な存在である環境の観点から地球から宇宙まで広い視点で生活を見つめ直し、社会の課題に取り組む活動を行う枠。

B. 「様々な視点での環境」を考えよう

地球の周りを飛ぶ無数の人工衛星によって、正確な天気の情報・災害情報・人や車の位置情報や、通信衛星を使って、「いつでも」「どこでも」情報を入手できる時代になった。宇宙、地球全体の環境や、人としての豊かな生活環境など様々な視点の「環境」を見つめ、解決していくことが豊かな生活を守り発展していくことが重要になる。色々な切り口での環境問題を発見し、課題解決策を考えてみよう。

#近大スマートシティ化

#再生可能エネルギー

#スペースデブリ観測

#気候変動に具体的な対策を

#海の豊かさを守ろう

#食の未来を考え創る 

#新しい農業のかたち

#水の未来

#資源枯渇

公式テーマの紹介

ウェルビーイング/幸せ

世界中から注目が集まりつつある「ウェルビーイング=幸せ」をテーマに一人一人、そして社会の幸せについて考え、活動を行う枠。

C. 「幸せな大学生活って？」を考えよう

「ウェルビーイング」や「幸福度」といった言葉がよく聞かれる。どうして今「幸せ」なのだろう？
今、お金や地位を他者と競い合うことだけが幸せではない、と世界中の人たちが考え始めている。

大学生の視点ならではの「幸せとは何か」をあらためて考えてみよう。
何を学び、どんなことに取り組み、誰とつながり、どこへ向かうのか。
まずは理想を語り合うところから、はじめよう。

#人それぞれのよく生きるあり方

#コミュニケーション

#100年生活者

#すべての人に健康と福祉を

#幸せのかたち

#心身ともに幸福な社会

#大学で不安に感じていること

#大学でつながりたい人

#理想の大学生活

公式テーマの紹介

地方創生/まちづくり

特に地元・東大阪市や大阪府を中心とした地方創生やまちづくりについて考え、行動する枠。（ただし活動地域は限定しない）

D.大学生の視点で考える「まち・ひと・しごと創生」

日本各地の「地方」と呼ばれる地域では、都市への人口流出や、人口減少に伴う自治体の消滅危機が叫ばれている。人口減少や、地域間、都市部との格差拡大の課題を大人では無い学生らしいユニークな視点で見つめることで、新たな解決方法が発見できるかもしれない。

新しい視点でアプローチする学生と自治体や民間企業、住民といった地域の主体者一体となった、持続可能な社会の形成めざして見よう。

持続可能な地域社会

学生が考える理想の街

スモールコミュニティー

学生視点のサードプレイス

カルチャー発信の場

まちの未来を考える 

ファンを増やす交流人口企画

文理横断

コミュニケーション

公式テーマの紹介

多様な価値観による共創

個性的な学生が集まる近畿大学ならではの、多様な価値観/背景/文化等の垣根を超え、人と人の相互理解と共創に向けて考え、取り組む枠。

E. 「近大の多様性」について考えよう

近畿大学には、色んな背景を持った多様な学生たちがたくさん集まってくる。

それが近大の魅力となり、強みとなっていく。

だからあらためて、私たちがお互いに関わり合いに多様で、違った価値観を持っているかについて、考えてみよう。

そして、違った人同士が同じ目的を持って学んでいるすばらしさについて、考えてみよう。

きっと、新しい発見があるはず。

フェムテックを考えよう

インクルーシブ的な思考

チェレンジド

学部を超えた共創をしたい

世代ギャップを超えた共創をしたい

多様な文化や人々と交流し、理解を深めたい

ジェンダー平等

狭い付き合いを超えたい

色んな文化を知りたい

公式テーマの紹介

安心・安全な社会に向けて

近年の自然災害の増加、安心な食など私たちの社会では様々な「安心・安全を脅かす問題」がある。
いる。身近な安心・安全問題、将来に向けた安心・安全問題解決に取り組む枠。

F. 「安心・安全な社会」を考えよう

多発する地震、気候変動により地球規模の環境変化や自然災害に備える防災対策。

さらに人との「つながり」やその関係性の質が非常に重要になっている。

「災害や急激な自然環境の変化を防ぎ守る」観点と、「人と人が孤立しないコミュニティの重要性の観点」の2つの広い視点から社会の安心・安全な社会を迎えるために、近畿大学の学生ならではの課題解決策を考えてみよう。

身近な自然環境

心のバリアフリー化

ユニバーサルデザイン

安心した食の提供

住み続けられるまちづくり

サイバー空間の孤立を防止

ネットワーク環境の安定化

災害への危機管理

児童・高齢者への生活支援

「公式テーマ枠」の申請にあたっては、申請書中の「希望する公式テーマ」を選択し、その公式テーマに関心がある理由を記入してください。
後日「対話会」を実施して、メンバーマッチングや具体的な取り組みの方向性を調整します。

希望する公式テーマ

- A. 「SDGsとその先の目標」を考えよう（SDGs/SDGs達成+beyond）
- B. 「様々な視点での環境」を考えよう（環境/地球・宇宙）
- C. 「幸せな大学生活って？」を考えよう（ウェルビーイング/幸せ）
- D. 大学生の視点で考える「まち・ひと・しごと創生」（地方創生/まちづくり）
- E. 「近大の多様性」について考えよう（多様な価値観による共創）
- F. 「安心・安全な社会」を考えよう（安心安全/防災）



その公式テーマに関心がある理由を申請書に記入。



「公式テーマ」応募者を対象に、面談前に「対話会」を実施。
どのような取り組みができるかを対話・調整する場を設けます。
(対話会の希望日時は、申請時に記入)



申請方法

1) 応募

① **2024年12月10日 (火) ~ 2025年1月10日 (金)**

までに「令和7年度プロジェクト申請書」に必要事項を記入し、ACT推進室まで提出してください。

- * 申請書はACT EX・UNIPAからダウンロードをしてください。
- * 学生は「自由テーマ枠」か「公式テーマ枠」を選択。
- * 提出はメール・手渡しいずれも可。
- * 提出した申請書を元に書類審査を実施します。

2) 面談

申請書提出と同時に面談希望日時をGoogleフォームに記入。

(第3希望まで記入可能)

各自の希望日時を調整の上面談を実施いたします。

2025年1月14日 (火) ~ 1月17日 (金)

2025年2月 5日 (水) ~ 2月10日 (月)

* **土日祝を除く平日に実施**

- * 手渡しの場合も必ずフォームに記入してください。
- * 書類審査を通過した方のみ面談を実施します。

3) 「公式テーマ」応募者のみ：対話会

「公式テーマ」応募者は面談前に対話会を行います。
対話会日程については別途ご連絡いたします。

スケジュール

- ・ **2024年12月10日 (火)** : 募集開始
- ・ **2025年 1月10日 (金)** : 申請書締め切り
- ・ **1月14日 (火) ~ 1月17日 (金)** : 面談審査①
- ・ **2月 5日 (水) ~ 2月10日 (月)** : 面談審査②
- ・ **3月中旬** : 正式通知
- ・ **3月下旬** : 各プロジェクト入れ替え
- ・ **4月~** : 運用スタート (~3月末)

■ 応募申請等に関する問い合わせ先 -

- ACT 推進室 (ACT212)
- TEL : 06-6730-5880 (内線6522)
- MAIL : act@ml.kindai.ac.jp



※月~金 8:45~18:30 / 土 8:45~17:30